

進路たより

学校斡旋による就職

学校斡旋による就職については、次のような位置づけになっているので、知っておきましょう。また、就職については、進路のしおりのp.8から詳細に記載されているので、一度目を通しておきましょう。

- 高校生の就職は、学校の進路指導部がハローワーク（公共職業安定所）から職業斡旋業務の一部を委託されて行っています。企業は「高卒用求人票」（しおりP.12～P.15参照）に必要事項を記入したものをハローワークへ提出します。ハローワークで受理・確認印が押印された求人票の写しを、7月1日以降に各学校へ送ってきます。
- 進路指導部では、それらを整理して「求人一覧表」として就職希望者に配付すると同時に、求人票のコピーをファイリングして進路資料室で閲覧できるようにしています。求人票には企業について知っておくべき最小限のことがすべて記載されていますので、すみずみまで目を通すようにしてください。現在、進路資料室には今年度の3年生向けにきた求人票のコピーが置いてあるので、少しでも就職を考えている人は、一度閲覧し、参考にしてください。

ハローワークとは・・・（正式名称：公共職業安定所）

民間の職業紹介事業等では就職へ結びつけることが難しい就職困難者を中心に支援しています。いわば、最後のセーフティネットとしての役割を担う、国（厚生労働省）の機関です。ハローワークでは、地域の総合的雇用サービス機関として、職業紹介、雇用保険、雇用対策などの業務を一体的に行っています。

※ ハローワークで紹介されている求人情報は原則、一般の人向けです。

つまり、採用後はすぐに働けることが前提になっています。卒業見込みの高校生は対象ではありません。したがって、ハローワークで求人情報を見つけてきて「ここが・・・」と申し出てもらっても対応できません。



知っておこう！

求人受付から採用内定までの流れ

進路のしおりのp.10に記載されている採用までの流れを簡単に載せておきます。

① 求人受付（7月1日～）

求人受付とは、職業安定所の受付印が押された求人票を企業が学校へ郵送または持参することです。（毎年度、同じ企業・職種で求人が来るとは限りません。）

② 就職斡旋申込（夏季休業中）

例年7月下旬から8月上旬にかけて、校内において推薦会議が行われます。就職希望者は推薦会議までに、受験したい企業を選び、「就職斡旋申込書」を担任に提出します。一度の申込みで第3希望まで申し込むことができますが、推薦されるのは1社です。

③ 推薦会議（夏季休業中）

就職斡旋申込書にもとづいて推薦会議を開き、企業の職種ごとに推薦する生徒を決定します。推薦会議は、3学年担任と進路指導部により厳正に行われます。企業の求人数より申込者が多い場合は、推薦会議により推薦者を選考します。

④ 応募書類発送（9月5日までに）

推薦決定者には履歴書（全国高等学校統一応募用紙）が渡されます。指定の日までに担任に提出します。9月5日からの企業の応募書類受け付けに間に合うように発送します。

⑤ 就職試験日の通知

企業から就職試験日の通知が学校に届いたら、担任を通じて連絡します。企業によっては選考にかかる旅費を支給してくれる場合があります。学割が利用できる場合は、学割の手続きを行い、利用するようにしましょう。

⑥ 受験（9月16日以降）

企業より指示された日に就職試験を受けます。受験したら「就職試験報告書」を記入し、翌日（休日の場合は登校した日）に担任に確認してもらった後、進路指導部に提出しましょう。

⑦ 選考結果通知

受験後、約1週間ほどで選考結果通知が学校に届きます。結果は、担任を通じて連絡します。合格者（内定者）は、企業の人事担当者あてに内定礼状を書き、3日以内に投函します。不合格者は個別に企業に相談、合同説明会に参加するなどして、再受験先を決めます。

⑧ 近況報告の送付

内定した企業には、入社までの間に近況報告を出します。

小論文ってむずかしい？ 作文とはちがうの？ 書いたことないから、わかんない！

小論文を攻略！

就職試験や四大・短大・看護専門学校などの入試では、作文や小論文を課すところがあります。自分の希望する進路先に対して、作文や小論文で自分をアピールできることが合格に向けてのポイントです。そのためには、早い時期から自分の経験や意見などを、文章で適格に表現できる力を養っておくことが必要です。

作文と小論文ってどう違うの？

小論文は「理由のある意見」、作文は「感想」

小論文は問われているテーマに対して「私は、～と考える。」という意見を述べ、「なぜなら、～だからだ。」という理由（論拠）を筋道立てて説明し、相手を説得する文章のことです。論理性や説得力の高さにポイントが置かれます。一方、作文は「～だと思う。」「～して楽しかった。」など、ある出来事から自分の心境や感想を述べた文章のことです。文章の流れ、感性の豊かさ、表現のうまさなどにポイントが置かれます。

小論文に求められているのは、表現の美しさではなく、「考える力」であり、「読み手を説得する力」です。どんなにしゃれた表現や言い回しがあっても、文章全体が「意見」と「理由（論拠）」という構造になっていなければ小論文とは言えません。また、意見があっても「なぜそう言えるのか」という理由がなければ小論文とは言えません。

どうすれば小論文をうまく書けるの？

①書く力を高めよう

●まずは、要約(サマリー)練習から

最近では、課題文を読んで自分の意見を書く形式が主流です。課題文の内容を理解できなければ、的外れな意見になってしまいます。まずは要約練習から始めましょう。新聞記事、コラム、社説、または雑誌記事を切り抜いて、200字もしくは300字で要約します。

●次は、自分の意見を文章にまとめる練習を

要約練習で使った記事等をもう一度読み、今度は自分の意見を400字もしくは600字で書いていきましょう。

●さらに、過去問にチャレンジ

要約と意見をまとめる練習を十分したら、過去問題を使って小論文を書いてみましょう。山商では、すべての先生に小論文指導をしてもらっています。要約や小論文を書いたら、進路指導部へ提出し、指導をしていただく先生の割り振りをしてもらって指導を受けてください。

●小論文模試を受験する

受験で小論文が必要な人は、HST（ハイスクールタイムズ）の小論文添削や学研の実戦小論文模試（リライト添削付）などをぜひ受験してください。

②今どんな問題が起こっているのか、何が問題なのか調べよう

まずは授業を大切に

一日の大半を占め、様々な知識や考え方に触れる一番の機会が授業です。まずは授業を大切にしましょう。

新聞、ニュースをチェック

新聞記事は、よく課題文として出されます。新聞やテレビなどのニュース番組で時事問題をこまめにチェックしましょう。「天声人語」など新聞のコラム欄などをしっかり読み込むことも大切です。ネットのニュースも参考になりますが、中には真実ではない内容が含まれている場合もあります。様々なメディアをうまく利用して多様なニュースや情報に触れることが重要です。

本を読む

図書館に小論文のコーナーが設置されています。志望する分野や、興味のあるジャンルの本から読んでみましょう。

～図書館より～

作文・小論文対策の本や資料は常時置いています。「進路」の棚、新刊コーナー、新聞切り抜き、スクラップファイルコーナーを見てください。また、本などについての相談は図書部の先生や司書まで気軽尋ねてください。

